

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)／寺島
幸生

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

学習内容が量・質ともに大幅に増加した新課程に対応できる教員を養成するため、教科内容の科学的基盤として、原理・法則の本質的意義や実験・観察の基本的技能を重視した授業内容とする。②授業では、問題演習やグループ別実験、ディスカッションなどの時間を設けて、学生自身が主体的に問題解決に取り組む場面を多く設定する。③学習内容の区切り毎にレポート課題を与え、レポートの提出、点検、返却、再提出のサイクルを繰り返しながら、学生自身のいわゆる「のびしろ」部分を明確にして成績評価に組み入れる。

2. 点検・評価

①授業内容：学部の講義や演習を中心に、学生が高校の学習内容と大学で学ぶ自然科学との接続を自ら意識しながら、自然科学の基本的な考え方や手法を学ぶことができるよう、授業内容を工夫することができた。
②授業方法：学部・大学院の教科教育関連の授業を中心に、グループ討論や発表などのアクティブ・ラーニングの手法を取り入れて、学生が科学的に思考し、表現する場を複数設けることができた。
③成績評価：筆記試験だけでなく、形成的評価を繰り返したレポートの内容、授業中の討論や発表におけるパフォーマンスなどを含めて、受講者の能力の向上を多角的に評価することができた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

大学で学ぶ専門的知識・技能が教育現場でどのように役立つのか、その有用性を意識する教育活動を行う。これまでの高校教員の経験を活かし、実際の授業における工夫や注意点など、学校現場のニーズに即した細やかな指導に努める。また、新1年生が円滑に大学生活をスタートできるように、授業や履修相談等を通して助言を与える。

2. 点検・評価

授業では、教員経験を活かした実践的な指導を行うことができた。
新入生からの質問や相談に個別に対応して適宜助言することができた。
教員採用試験を受験する学生・院生を個々に支援し、授業外にも模擬授業や集団討論等に関する助言を与えた。
学生の卒業研究を積極的かつ丁寧に指導することができた。学生はその研究成果を学会でも発表し自信を得ることができた。
女子バレーボール部の顧問を務め、四国インカレなどにおいて学生の競技の健闘を激励した。

II-2. 研究

1. 目標・計画

理科教育の充実・発展に寄与する実験教材を開発し、その有用性を検証するための授業実践を試みる。同時に、教材開発の基盤となる学術的研究として、現存する複数の実験装置を最大限活用して溶液系の物理的性質を多角的に研究する予定である。

2. 点検・評価

理科教育の充実・発展に寄与する実用的な教材を開発してそれを用いた授業実践を行い、それら研究成果を論文(査読付)4編(印刷中含む)、学会発表5件(連名含む)として発表することができた。
教材開発の基盤となる化学物理分野の学術的研究にも積極的に取り組み、その研究成果を国際的学術誌上で論文(査読付)2編として発表することができた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

所属する教育部、コースおよび委員会等の組織において、任された職務を全うできるよう努力する。

2. 点検・評価

所属する自然生活系教育部、自然系コース(理科)および国際交流委員会において、任された職務を不備なく務めることができた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

附属学校や近隣の学校での教育実習や研究活動を参観し、連携可能な教育・研究活動を模索する。例えば、「教育実践フィールド研究」等への関わりを通して実践的研究の可能性を検討する。
また、教育委員会等教育機関や報道機関等と情報を共有し、地域の教育活動の充実・発展に貢献できるように努力する。
所属する国際交流委員会において、国際交流活動の推進に努める。

2. 点検・評価

附属学校や近隣のインターンシップ協力校(鳴門中学校)での教育実習や研究活動を積極的に参観することができた。
後期より教育支援講師・アドバイザーに登録し、第42回徳島県中学校理科教育研究大会(名西大会)指導助言者(徳島県中学校教育研究会主催、平成25(2013)年10月25日、石井中学校)や第70回科学作品展・科学経験発表会(中学校の部)特別審査員(徳島県教育委員会・公益社団法人徳島県教育会主催、平成25(2013)年10月27日、徳島県教育会館)、高大連携出張講義の講師(徳島県立富岡西高等学校、平成26年(2014)年1月23日)などを務めて、地域の教育活動に協力することができた。
国際交流委員会が主催する留学生の学外研修(平成25(2013)年12月18、19日、岡山・広島方面1泊2日)に引率教員として参加し、留学生の研修が充実したものとなるよう積極的に支援した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

特記事項なし